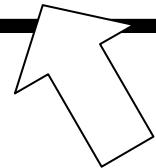
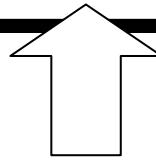
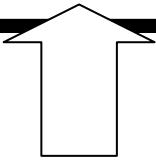
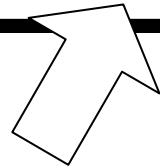


<日本経済の基調判断>

景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている。



輸出は大幅増加、
生産も増加。

企業収益は改善続
く。設備投資は増加。

個人消費は、
持ち直し。

雇用情勢は、依然
として厳しいものの、
持ち直しの動き。

(先行き)

- ・世界経済が回復する中で、日本の景気回復が続くと見込まれる。
- ・一方、為替レートなどの動向には留意する必要がある。

<政策の基本的態度>

政府は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」の早期具体化により、構造改革の一層の強化を図る。この一環として、3月11日、「経済活性化のための改革工程表」をとりまとめた。また、構造改革を推進する中で、平成16年度予算及び関連法案の早期成立に努める。

政府は、日本銀行と一体となって、金融・資本市場の安定及びデフレ克服を目指し、引き続き強力かつ総合的な取組を行う。

今月の説明の主な内容

(1)基調判断

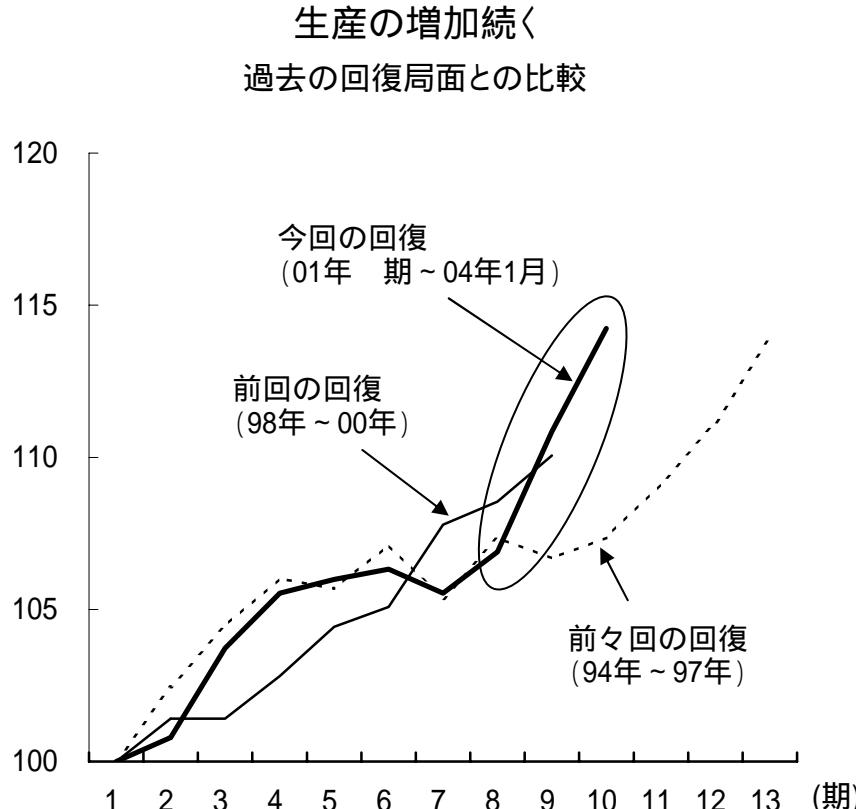
「景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続いている」

- ・2つのエンジン(設備投資と輸出)の回転続く
- ・個人消費も持ち直しへ
- ・緩やかなデフレ続くも、素材価格上昇で企業物価がわずかに上昇
- ・世界経済も回復続く 日本の輸出、大幅増加へ

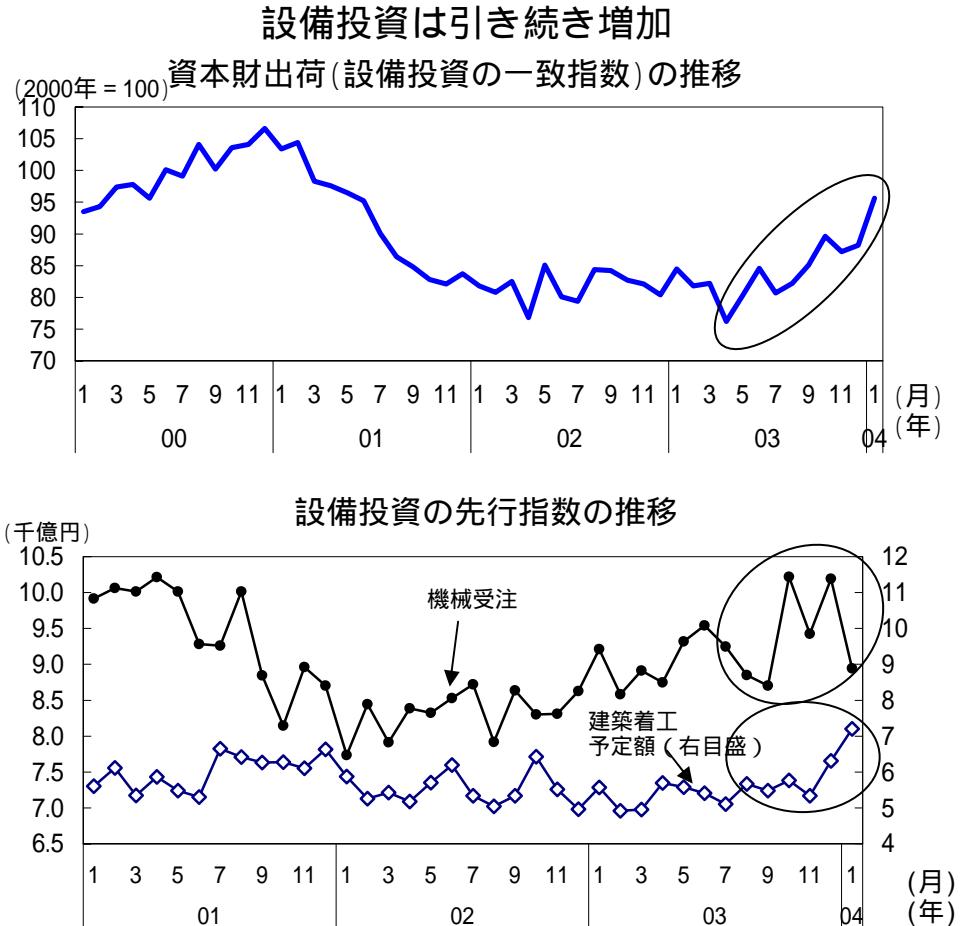
(2)為替・株式市場の動向について

- ・世界的にドル安修正の動き
- ・出遅れ感のあった日本株価が回復

(基調判断)
景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続けている



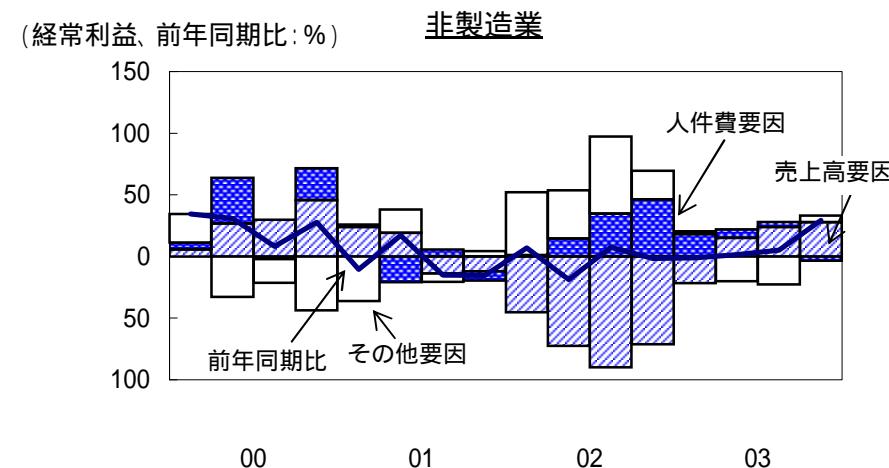
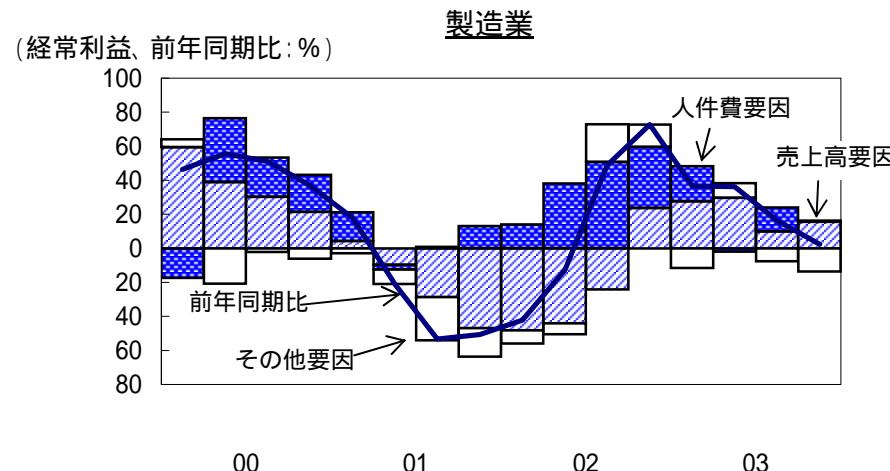
(備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」より作成。
2. 各期の最低値を100として、最高値までを指数化。
3. 各四半期値(04年1月は単月)にて作成。



(備考) 経済産業省「鉱工業出荷指数」、除く輸送機械。
内閣府「機械受注統計調査報告」の民需(除船電)。
国土交通省「建築着工統計調査」の建築工事費予定額。
季節調整値。

(基調判断)
景気は、設備投資と輸出に支えられ、着実な回復を続いている

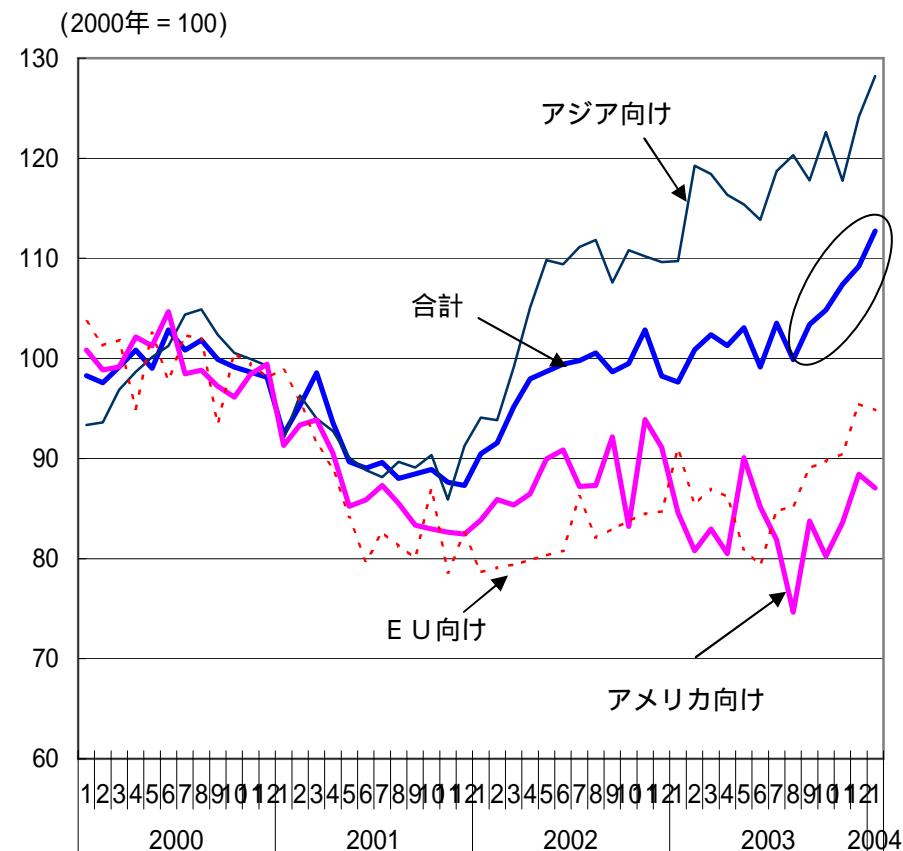
企業収益：リストラ効果よりも売上増加効果で増益



(備考) 財務省「法人企業統計」より作成。

輸出数量の推移

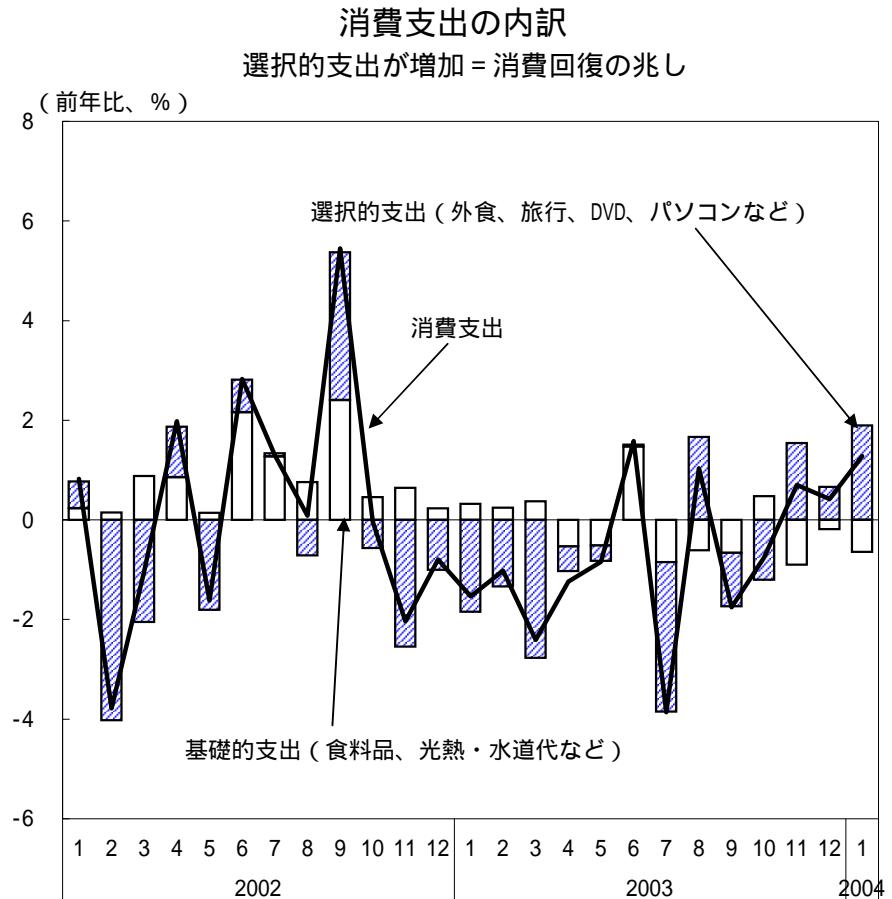
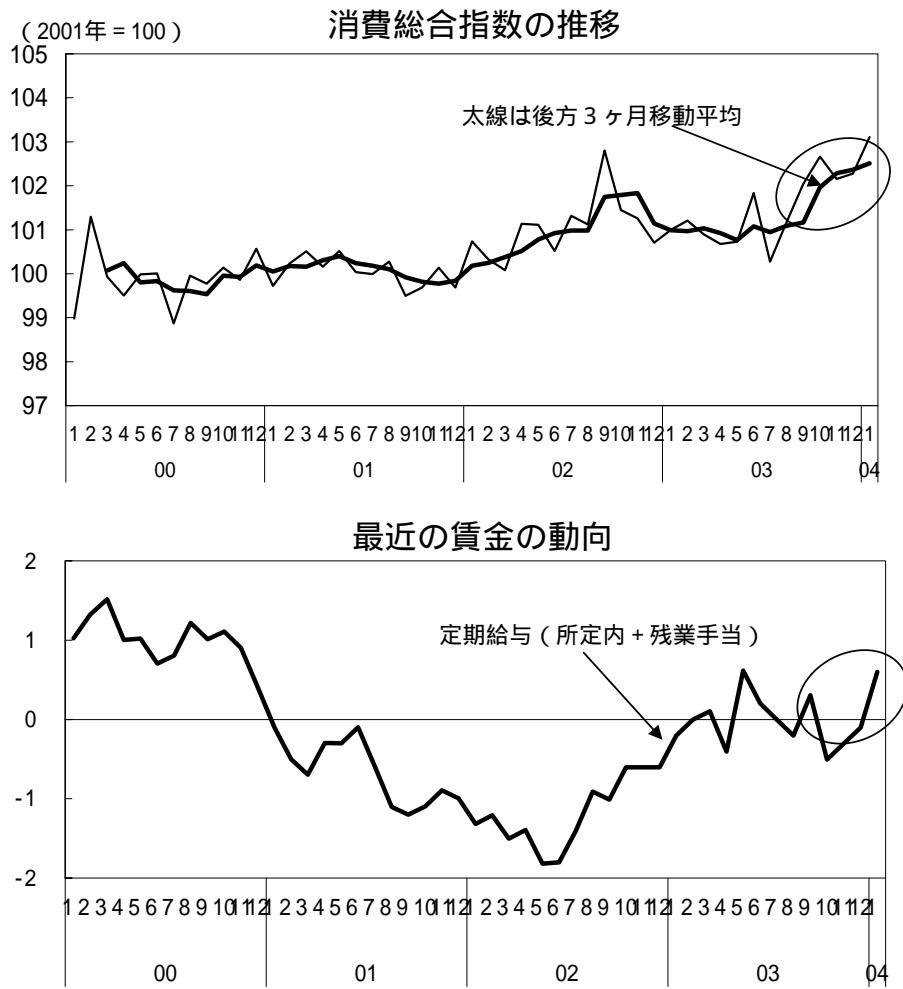
- 輸出は各地域向けに大幅に増加 -



(備考) 1. 財務省「貿易統計」、経済産業省「鉱工業指数」により作成。

2. 数値はすべて季節調整値。

個人消費は持ち直している

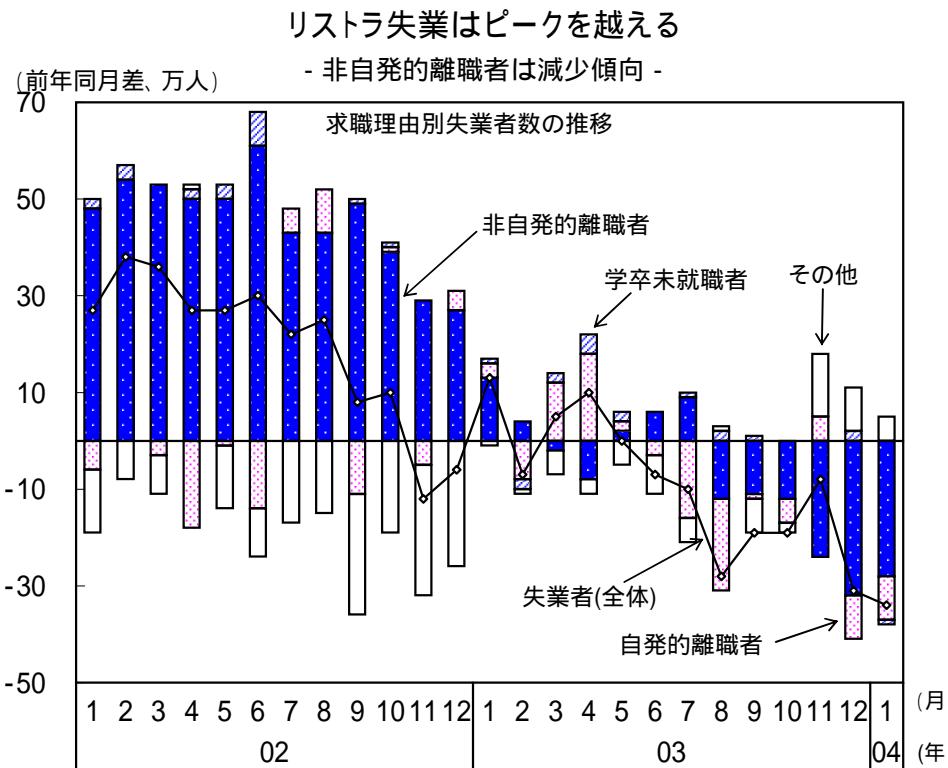


(備考) 1. 消費総合指数は、内閣府（経済財政分析担当）で作成。数値は季節調整値。
2. 定期給与は、厚生労働省「毎月勤労統計調査」により作成。
3. 消費支出の内訳は、総務省「家計調査（全世帯）」により作成。数値は実質値。

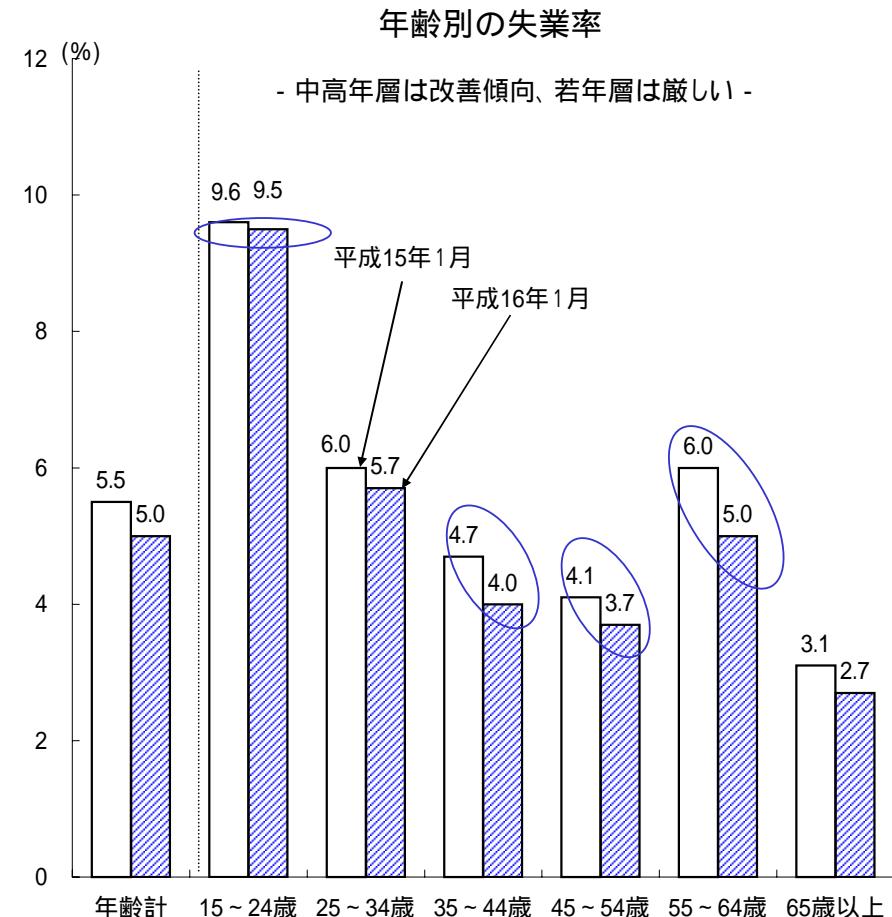
雇用情勢：依然厳しいものの、持ち直しの動き

失業率：5.0% (1月)

- 失業率はこのところ低下傾向。
(平成15年1月 5.5% 16年1月 5.0%)
- 雇用者数は持ち直しへ



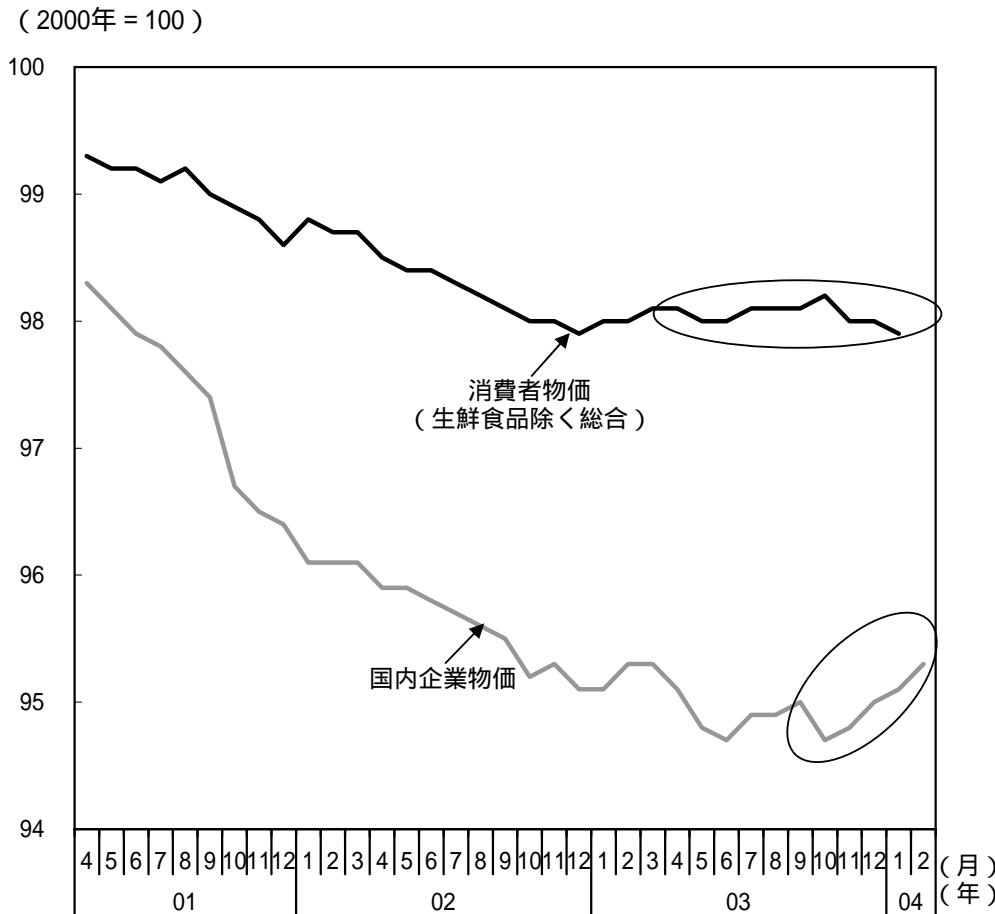
(備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。



(備考) 1. 総務省「労働力調査」により作成。
2. 年齢計は季節調整値、年齢別は原数値。

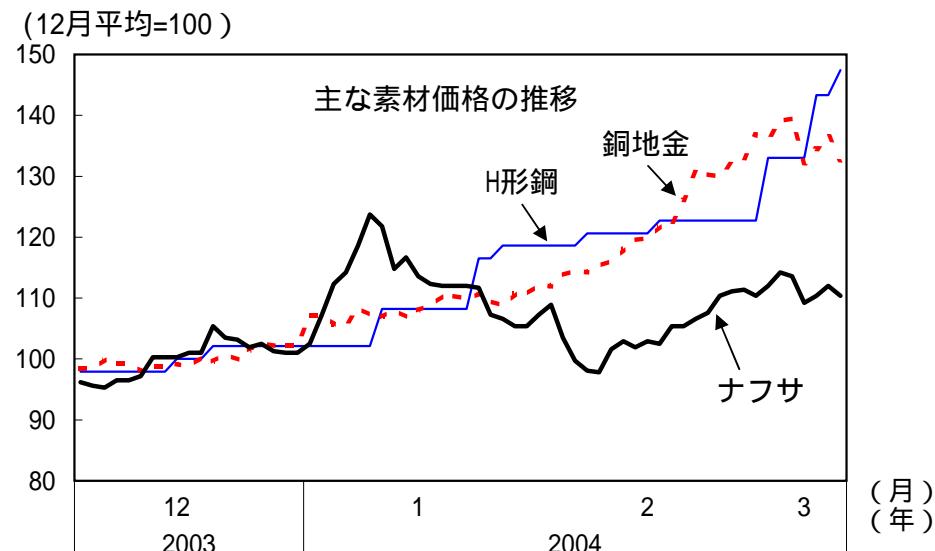
デフレの現状

企業物価は、素材価格の上昇でわずかに上昇
消費者物価は、横ばい



(備考) 1. 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」により作成。
2. 消費者物価は全国、季節調整済指数。
3. 3月9日までの日次データを使用(日本経済新聞「日経needs」を使用)。
素材価格については、内閣府で指数化。

素材価格が強い上昇



生産の流れ：川上から川下へ

素原材料 (スクラップ、銅、原油など)

中間財 (鋼材、ナフサなど)

最終財

資本財 (工作機械、トラックなど)
消費財 (衣服、家電など)

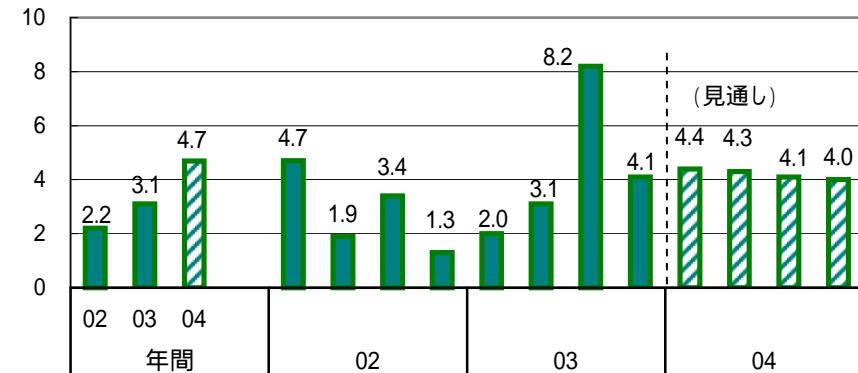
消費者物価には、消費財とサービスの価格が含まれる。

世界経済も回復続く

アメリカの景気は力強く回復

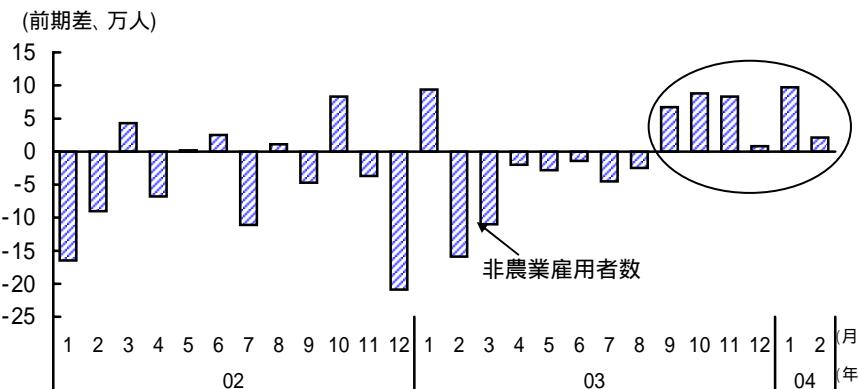
アメリカの民間エコノミストの平均的見方 - 2004年は4%台半ばの高成長 -

(前年比、前期比年率、%)



(出所) アメリカ商務省、ブルーチップ・インディケーター（3月10日号）

雇用の回復が依然課題 - 雇用者数(非農業)の増減 -

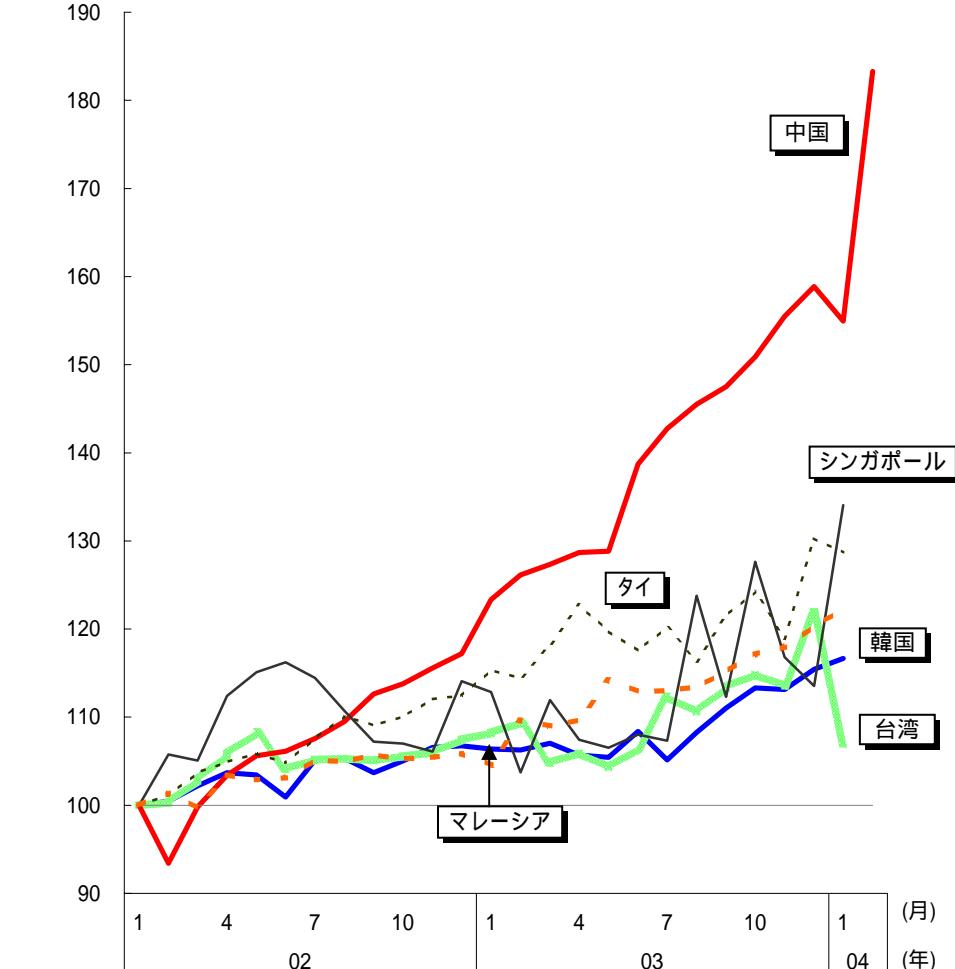


(出所) アメリカ労働省

アジアも着実な回復

- 製造業生産の推移 -

(02年1月 = 100)



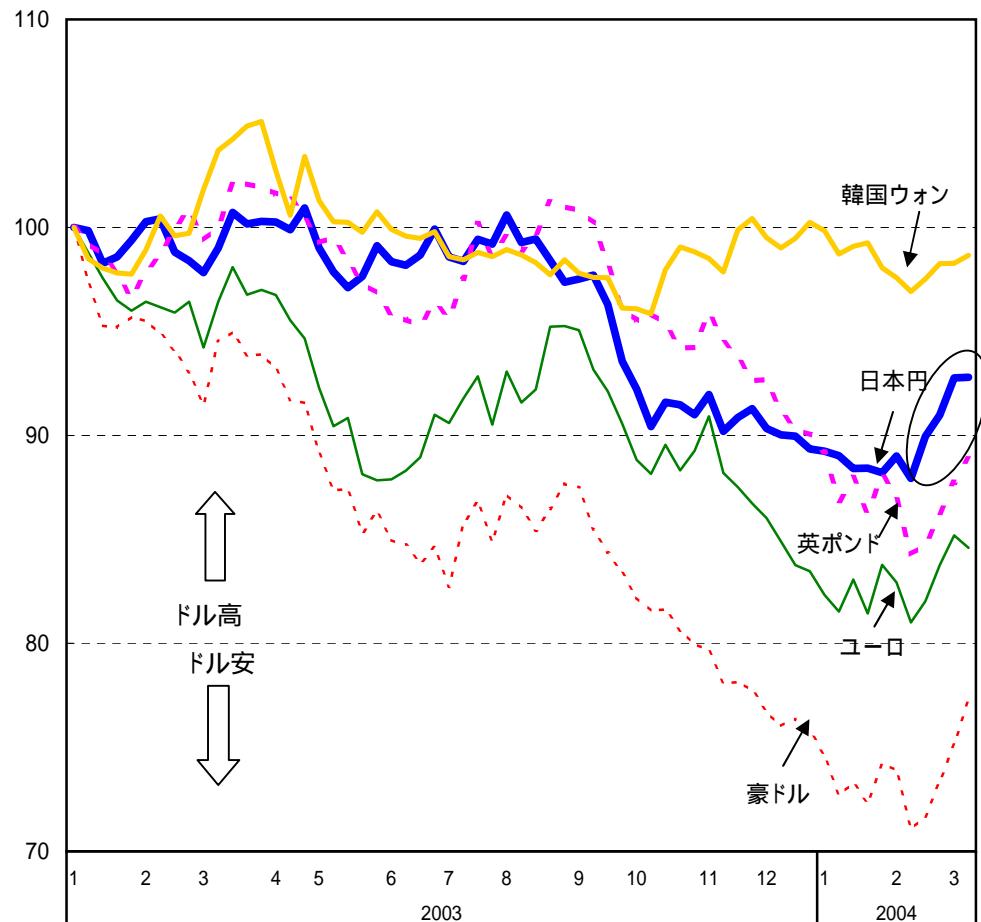
(出所) 各国・地域統計

(注) 1. 中国は鉱工業生産付加価値額。

2. 季節調整値(中国、台湾、マレーシアは内閣府試算)。

為替・株式市場の動向

世界的にドル安修正が進む

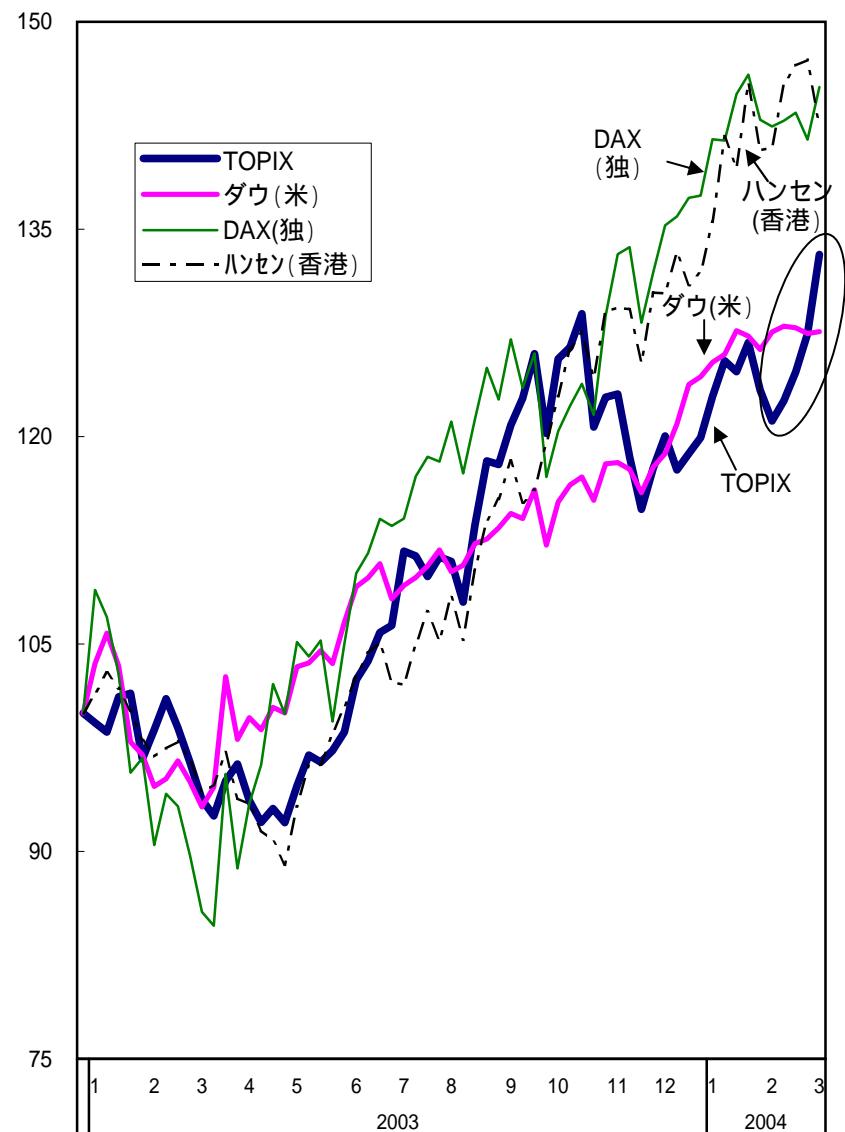


ドル安修正の背景(市場の見方)

- ・米国成長持続期待強まる
→ ドルの信認回復
 - ・米国以外の経済の回復期待
→ 米国経常収支赤字の縮小期待
 - ・円売りドル買い介入で円高期待修正
→ 投機筋のポジション調整
- など

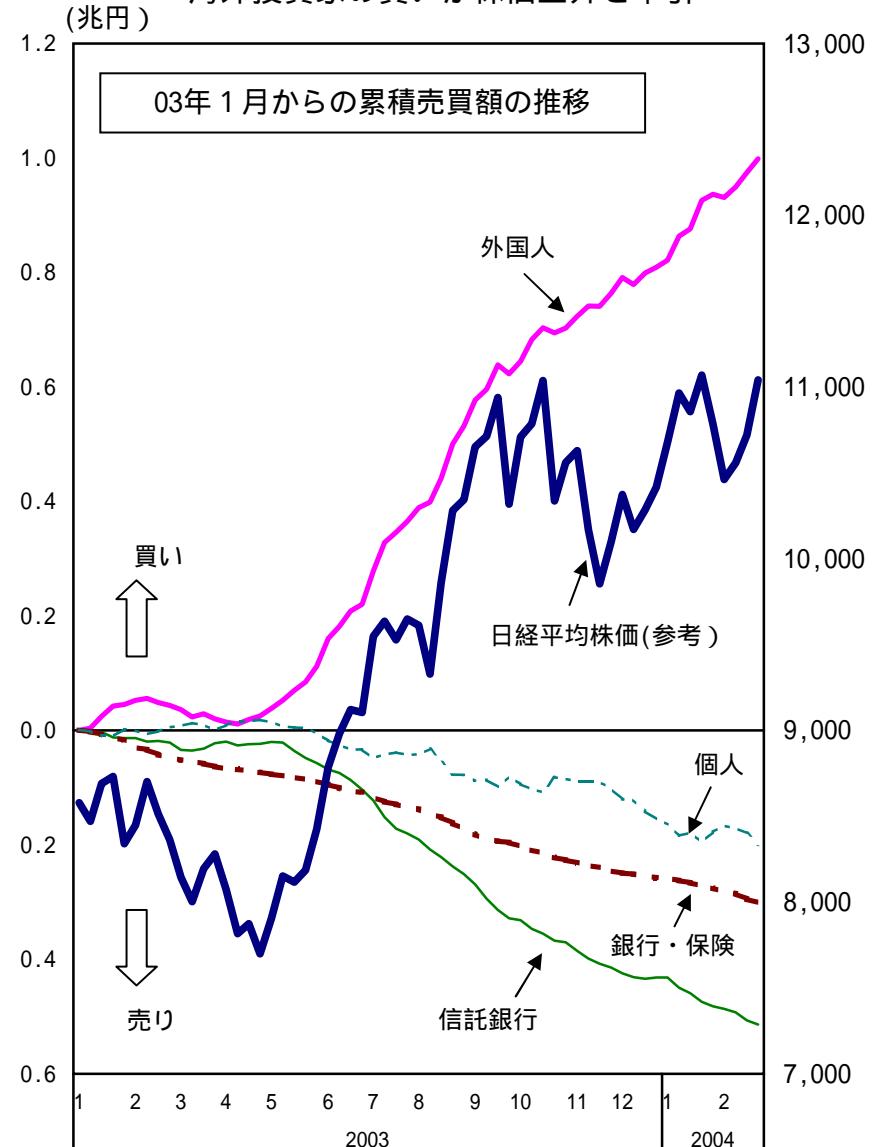
為替・株式市場の動向

出遅れ感のあった日本株価、急速に上昇



(備考) 2002年末を100として指数化。2004年3月5日終値まで。

海外投資家の買いが株価上昇を牽引



(備考) 東京証券取引所「投資部門別売買状況」より。2月27日までのデータ。